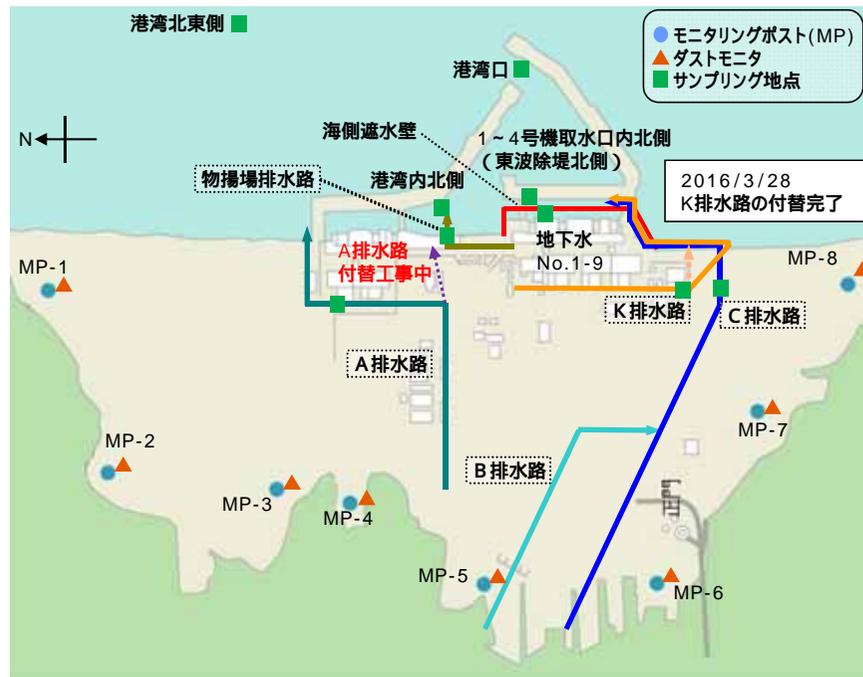
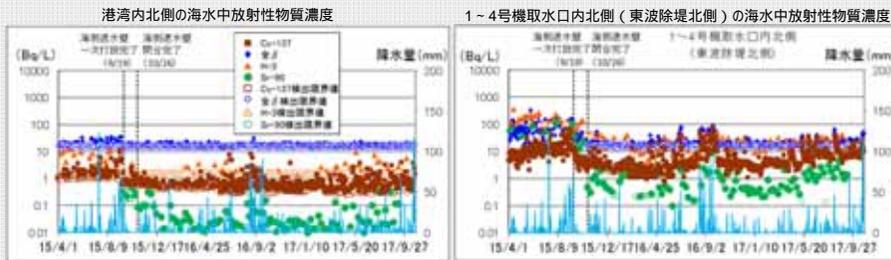


- 前回(9月28日)以降のデータ公開数は約8,923件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約8,923件を公開しました。

- 1号機建屋カバー壁パネル取外し完了 敷地内ダスト(粉じん)濃度は安定
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事において、屋根パネル取外し(2015年10月5日)以降、ダスト飛散防止対策として散水設備の設置、崩落屋根上の小ガレキ吸引、飛散防止剤散布などを経て、2016年9月13日から壁パネルの取外しを開始。2016年11月10日に全18枚の取外しが完了し、オペフロ調査を実施しています。これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。

- 港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定
10月も降雨が多く、1～4号機取水路開渠内及び港湾内海水の放射性物質濃度に上昇が見られましたが、降雨後は海側遮水壁閉合に伴い低下した濃度に戻っております。引き続き、排水路の清掃や敷地全体の除染を行うとともに、港湾内の水質を監視していきます。



データ採取位置図(右のA、B、C等に対応するポイント)



A 水(海水、排水路、地下水等)

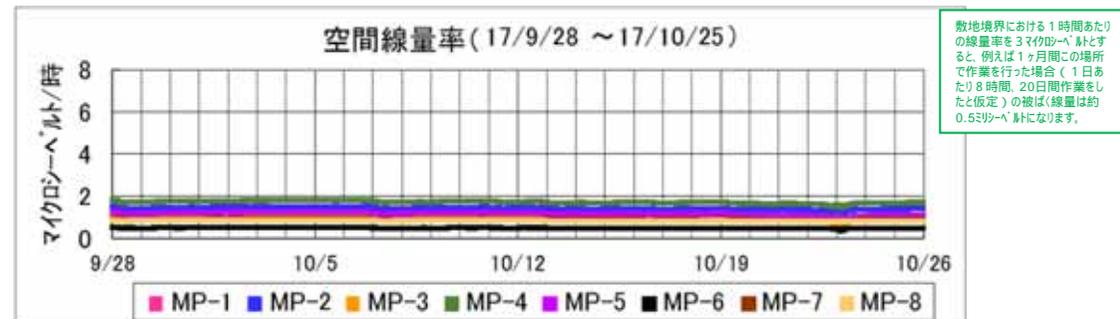
- K排水路では、降雨時にセシウム137、全ベータ濃度が上昇。
- セシウム137は、降雨時のK排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。
(地下水 1-9については全ベータ濃度で監視)



全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質、カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。(ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。10月23日は、台風通過による悪天候のため、K排水路(自動採水器により採取)を除き欠測。

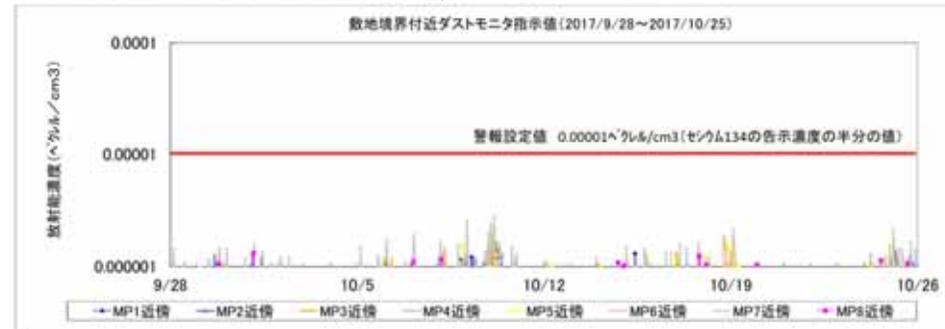
B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

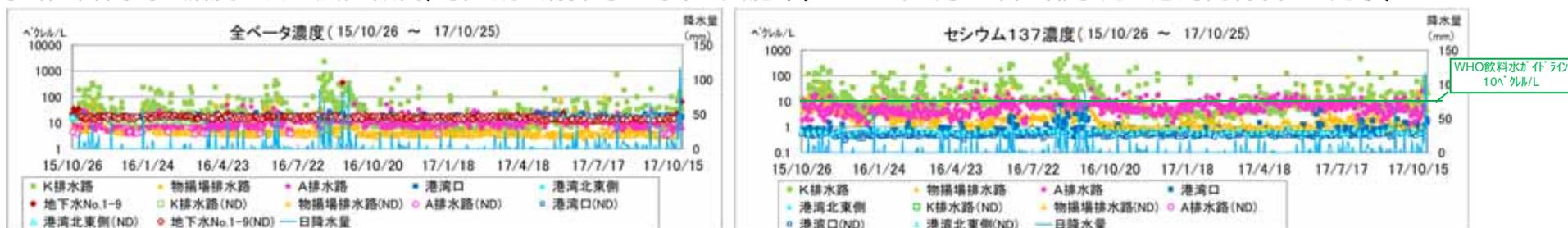


告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

放射線データの概要 過去の状況

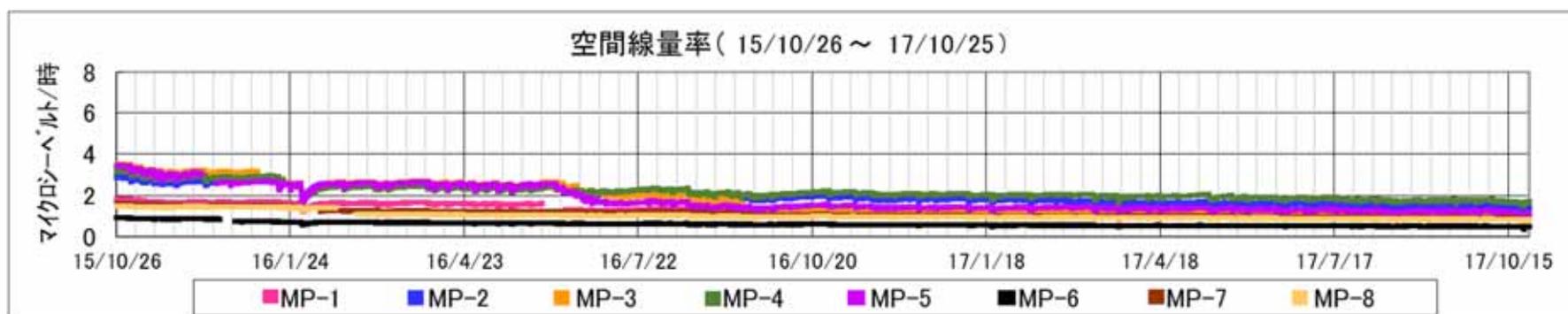
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
- ・K排水路の降雨時の濃度上昇は減少傾向。引き続き清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



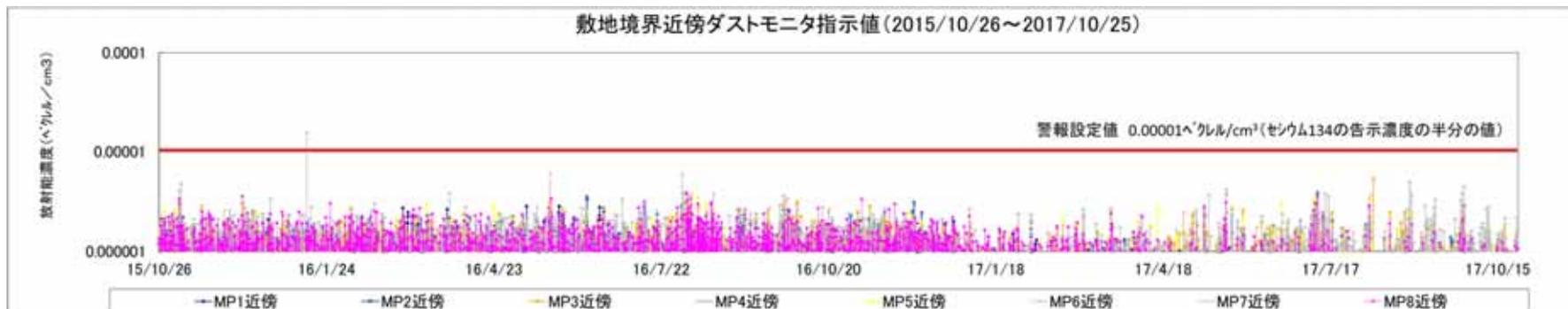
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の半分以下に低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

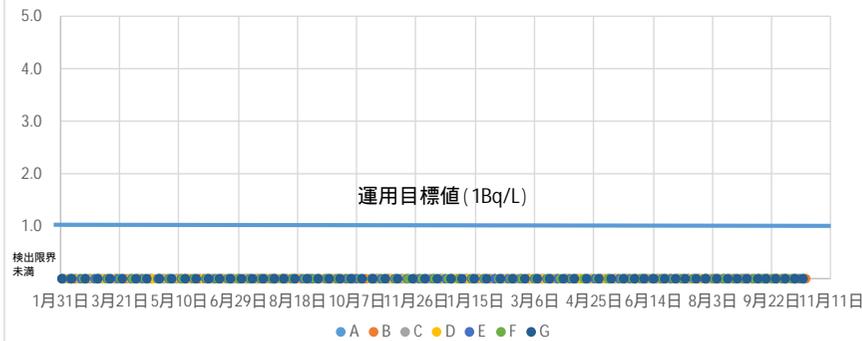
一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果で、セシウム134、セシウム137、全ベータ（ストロンチウム等）、トリチウムが運用目標値を下回っていること、その他ガンマ核種が検出されていないことを確認しました。

同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2017年10月25日までに合計529回、432,788m³を排水しました。

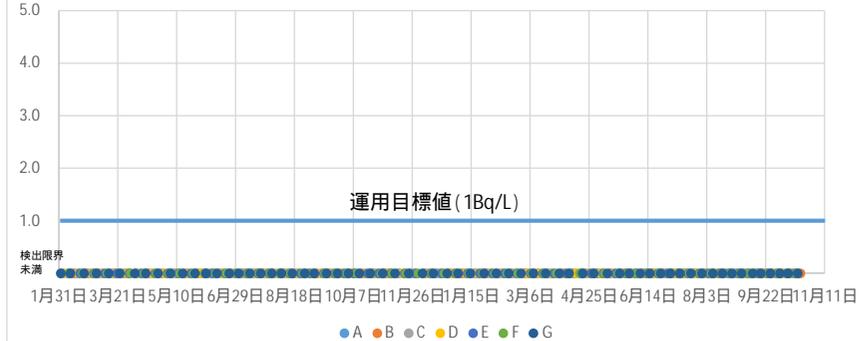
今後も、分析結果が運用目標値を下回っていることを確認した上で排水する運用を徹底してまいります。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）

セシウム134濃度 (Bq/L)



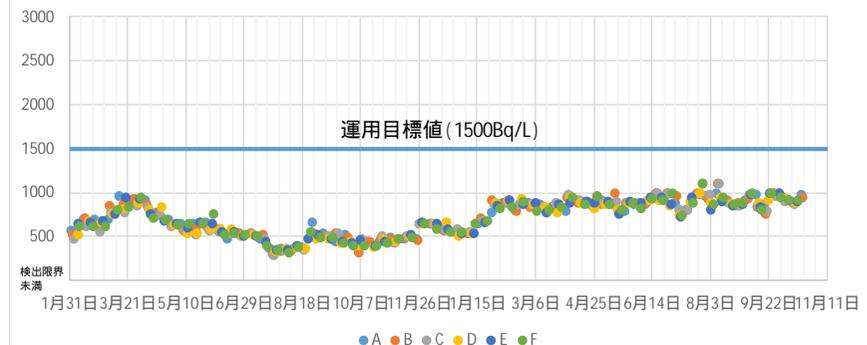
セシウム137濃度 (Bq/L)



全ベータ濃度 (Bq/L)



トリチウム濃度 (Bq/L)



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

2,3号機復水器内の水抜き作業について

【1~3号機復水器内水抜き作業の概要】

- 2020年の建屋内滞留水の処理完了に向けて、タービン建屋の水抜き作業の一環として、1~3号機復水器内滞留水の水抜き作業を進めている。

<これまでの進捗状況>

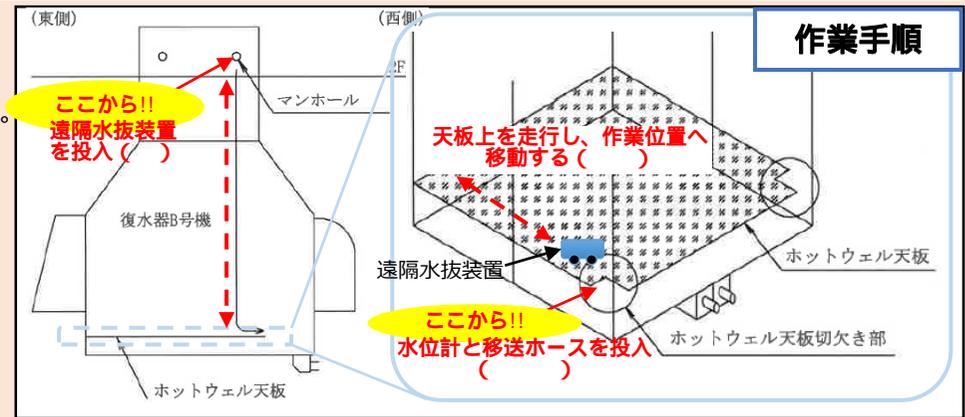
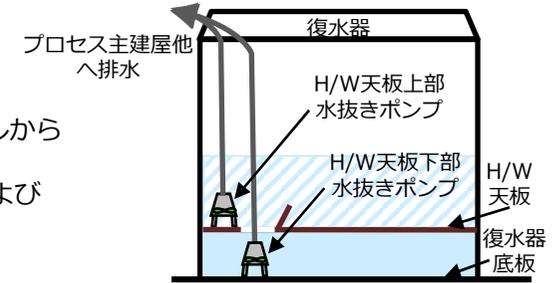
- 1~3号機復水器内ホットウェル天板上部までの滞留水の水抜き作業は、低圧タービン外部車室のマンホールから復水器内へポンプ等を投入し、2017年6月に完了。
- また、1号機復水器ホットウェル天板下部の滞留水の水抜き作業は、ホットウェル天板マンホールの開放およびポンプ等設置を遠隔で行い、2017年8月に完了。

<2,3号機復水器内ホットウェル天板下部の水抜き作業>

- 2号機は2017年11月上旬~中旬、3号機は2017年12月上旬~中旬にかけて、水抜き作業を実施予定。

<作業手順>

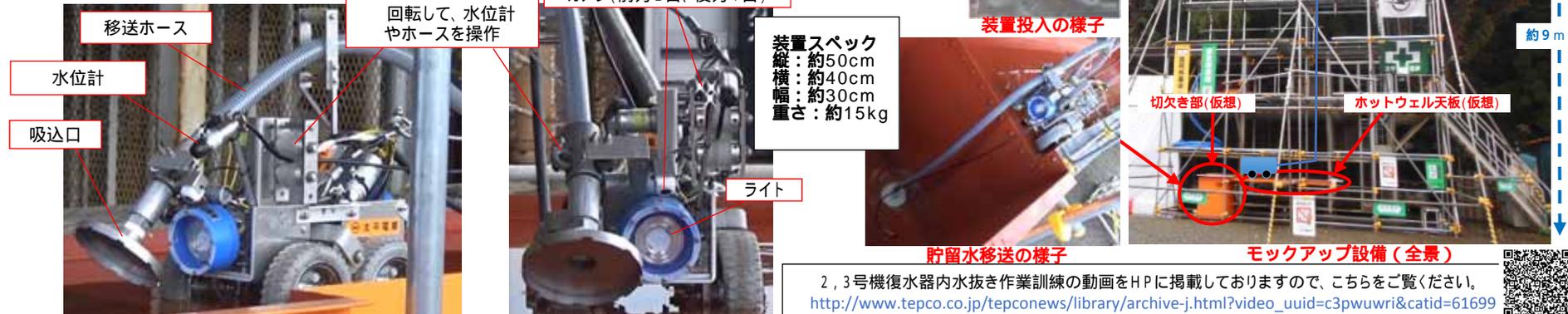
- ① 遠隔水抜装置を低圧タービン外部車室のマンホールから復水器内へ投入。
 - ② 遠隔水抜装置を徐々に下ろし、ホットウェル天板に着地。
 - ③ 遠隔水抜装置を切欠き部付近へ移動。
 - ④ 天板下部に向けて、切欠き部から、水位計および移送ホースを投入。
 - ⑤ ポンプを稼働し、ホットウェル天板下部の滞留水を汲み上げる。
 - ⑥ 滞留水の汲み上げ完了後、水位計および移送ホースを引き上げる。
 - ⑦ 遠隔水抜装置を、マンホールの真下（装置着地位置）へ移動。
 - ⑧ 遠隔水抜装置を吊上げ、回収。
- 1~3号機復水器からの水抜きが完了すると、建屋内滞留水の放射性物質量は、約2割減少する。(2014年度比)



【モックアップによる遠隔操作の水抜き作業を実施】

- より確実に遠隔操作による水抜き作業を行うため、2017年9月~12月にかけてモックアップによる水抜き作業の訓練を実施。
→約9m離れた場所での遠隔操作手順を確認し、遠隔操作を習熟する。

<遠隔水抜装置>



2,3号機復水器内水抜き作業訓練の動画をHPに掲載しておりますので、こちらをご覧ください。
http://www.tepco.co.jp/tepcnews/library/archive-j.html?video_uuid=c3pwuwri&catid=61699

